

平成29年度 防衛大学校入校式
防衛副大臣訓示

本日ここに、防衛大学校本科及び研究科の入校式が挙行されるにあたり、防衛副大臣として一言申し上げます。

新入生の皆さん、入校おめでとう。

また、新入生の御家族・関係者の皆様、本日の、この佳き日を迎えられたことに対しまして心からお祝いを申し上げます。存じます。

本科入校の皆さん、皆さんは今、無限の可能性を持って、この防衛大学校の門をくぐりました。これからの4年間、ここ小原台の学び舎において、集団生活をおくりながら、学業と訓練に励み、将来の幹部自衛官となるに相応しい資質を磨いていくことになります。この間、これまで経験したことがないような戸惑いや不安、数多くの困難にも直面することと思います。そのとき、國分学校長をはじめとする防衛大学校の教職員、学生生活を共にする諸先輩、そして何よりも、本日から仲間になる、この同期の存在が必ずや心の支えとなり、困難を乗り越える助けとなるはずです。そのように、お互いが助け合って過ごす、この4年間の経験は、皆さんを将来の幹部自衛官として、また一人の社会人として、大きく成長させてくれます。皆さんが常に高く志を持ち、かつ、視野を広くして、学業と訓練に励むことを心から期待をいたしております。

研究科入校生の皆さん、皆さんがこれから取り組む課題は、時代とともに大きく変化、複雑化しています。科学技術の発展や安全保障環境の変化について、その最先端の動きに応じ、的確に対応していかなければなりません。防衛省・自衛隊には、今それが求められています。皆さんには、将来、それぞれの持ち場において、本校の研究科で研鑽を積んだ成果を還元し、修得した知識・技能を十二分に発揮することを期待しております。

留学生として来られた皆さん。防衛大学校への留学を心から歓迎申し上げます。

生まれ育った母国とは異なる環境に、戸惑うこともあるかと思います。しかし、ここにいる仲間と共に助け合うことで、少しずつ少しずつ日本での生活に慣れていただき、学生としての立派な成果を収めていただきたいと思います。っております。

そして、仲間との共同生活を通じ、終生変わらぬ友情を育み、皆さんのそれ

それぞれの母国と我が国との協力関係がより一層深まっていくよう、一人一人が、その架け橋となることを期待しております。

自衛隊の主たる任務は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つために、我が国を防衛することにあります。

近年、我が国を取り巻く安全保障環境は、先ほど國分先生のお話にもございましたが一層厳しさを増してきております。

北朝鮮は、昨年、2回の核実験を強行するとともに、20発以上の弾道ミサイルを発射し、今年に入ってから、弾道ミサイルの発射を繰り返しています。そして、今朝も1発の弾道ミサイルが日本海に向けて発射をされ、数十キロメートルを飛翔した模様であります。また、核兵器は小型化・弾道化の実現に至っている可能性も考えられ、弾道ミサイルも、技術的な信頼性の向上や新たなミサイルの開発を追求していくとみられております。

このような北朝鮮の核・弾道ミサイルの開発や運用能力の向上は、昨年来、我が国を含む地域及び国際社会に対する新たな段階の脅威となっております。また、中国は、東シナ海において、公船による我が国の尖閣諸島周辺の領海侵入等を繰り返し、南シナ海においては、急速かつ大規模な埋め立てや港湾・滑走路などの施設の建設を強行するなど、一方的な現状変更をより一層進展をさせています。このように、中国の自らの一方的な主張を妥協なく実現しようとする姿勢を示しており、今後の方向性について強い懸念を抱かせる面があります。

このような安全保障環境の中、自衛隊は整齊と任務を遂行してきています。

また、我が国は、幾度となく自然災害に襲われております。それら自然災害に対処するために、派遣を要請された自衛隊は、国内の各所で地道に活動してきました。皆さんの先輩達が積み重ねてきた活動の一つ一つが、国民の安全・安心に寄与し、現在の自衛隊に寄せられる大きな信頼につながっていると考えております。

こうした中、自衛隊に求められる役割や期待は、より一層大きなものとなってきており、これは、ここにいる皆さん一人一人に求められる役割と期待への高まりを意味していると思います。

刻々と変化する国際情勢の中において、自衛隊は、常に前例のない課題に直面をしてきており、皆さんが歩んでいく、この先、10年、20年後の国際情勢においては、今では想像のつかないような課題が待ち受けているかもしれません。そのとき、過去を振り返っても、そこに答えはありません。前例のない課題に対して、諦めることなく、如何に挑み、解決をしていくのか、こうした

姿勢こそが、そして、また能力が、一人一人に求められているのではないかと
思っております。

「自衛隊の役割をどう考えるか、国民の信頼と期待をどう受け止めていくか、
そして、将来の幹部自衛官としてどのようにあるべきか。」

防衛大学校での学業と訓練を通じ、一人一人が自分自身に対して、また、お
互いの議論の中で、問い続け、探求していただきたい、このように思っており
ます。

本日、御多用中のところ御臨席をいただきました御来賓の皆さま、日頃から
防衛大学校そして防衛省・自衛隊に対しまして、多大なる御理解・御協力を賜
っておりますことに、衷心より御礼申し上げたいと思います。

また、國分学校長をはじめ教職員の皆さまが、本日御臨席の御来賓、御家族
の皆様に恥ずることのない、最高水準の教育、並びに、情熱と愛情に溢れた訓
育及び指導を行うことを確信いたしております。

結びになりますが、改めて、ここに集まった入校生の皆さんが、この防衛大
学校で大いに学び、将来、自衛隊の任務の遂行に大いに貢献されることを祈念
し、私の訓示といたします。

平成29年4月5日
防衛副大臣 若宮 健嗣